

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書の訂正報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第4項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年12月7日
【四半期会計期間】	第46期第1四半期（自平成23年10月21日 至平成24年1月20日）
【会社名】	株式会社オリバー
【英訳名】	OLIVER CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 大川 博美
【本店の所在の場所】	愛知県岡崎市藪田一丁目1番地12
【電話番号】	(0564)27-2800(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員管理部長 杉浦 福太郎
【最寄りの連絡場所】	愛知県岡崎市藪田一丁目1番地12
【電話番号】	(0564)27-2800(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員管理部長 杉浦 福太郎
【縦覧に供する場所】	株式会社名古屋証券取引所 (名古屋市中区栄三丁目8番20号)

## 1【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

### 1. 訂正の経緯

当社において、平成24年9月25日に架空取引の疑いが生じたことから、事実関係の有無及びその内容の詳細な解明を行うため、9月28日当社代表取締役社長を委員長とする社内調査委員会を設置致しました。その後社内調査委員会に社外の有識者を招聘した上で詳細な調査を行った結果、過去における複数の取引先との取引において、実態のない取引の売上計上及び仕入計上があったとの判断から、10月30日に当社において不正取引が行われていたことが判明した旨及び社内調査委員会の設置の事実を開示するとともに、11月6日第三者調査委員会（以下「第三者委員会」という。）を設置致しました。同日以降、第三者委員会は関係者へのヒアリングやその他利用可能な方法により、当社の不正取引（架空・循環取引）に関して調査を実施し、12月3日当社は第三者委員会より調査結果を記載した調査報告書を受領致しました。

平成24年12月3日付の第三者委員会による調査報告書の指摘及び社内調査委員会の結果を受け、過去に提出致しました有価証券報告書等に記載されている連結財務諸表及び財務諸表に含まれる不適切な会計処理を訂正し、有価証券報告書等の訂正報告書を提出することを、平成24年12月7日の取締役会の承認を経て決定致しました。

### 2. 会計処理

平成19年度から平成24年第3四半期までの期間の連結財務諸表及び財務諸表において、過大に計上されていた売上高及び売上原価を修正するとともに、架空・循環取引に係る債権及び債務の修正等、必要と認められる修正を行いました。

これらの決算訂正により、当社が平成24年3月5日付で提出致しました第46期第1四半期（自平成23年10月21日至平成24年1月20日）四半期報告書の記載事項の一部を訂正する必要が生じたので、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出するものです。

なお、訂正後の四半期連結財務諸表については、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けており、四半期レビュー報告書を添付しています。

また、四半期連結財務諸表の記載内容にかかる訂正箇所についてはXBRLの修正も行いましたので、併せて修正後のXBRL形式のデータ一式（表示情報ファイルを含む）を提出いたします。

## 2【訂正事項】

### 第一部 企業情報

#### 第1 企業の概況

##### 1 主要な経営指標等の推移

#### 第2 事業の状況

##### 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

#### 第4 経理の状況

##### 1 四半期連結財務諸表

### 四半期レビュー報告書

## 3【訂正箇所】

訂正箇所は\_\_\_\_\_線で示しております。

なお、訂正箇所が多数に及ぶことから上記の訂正事項については、訂正後のみを記載しています。

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第45期 第1四半期連結 累計期間	第46期 第1四半期連結 累計期間	第45期
会計期間	自平成22年10月21日 至平成23年1月20日	自平成23年10月21日 至平成24年1月20日	自平成22年10月21日 至平成23年10月20日
売上高(千円)	3,919,884	4,583,930	19,896,693
経常利益(千円)	241,364	399,082	1,878,197
四半期(当期)純利益(千円)	27,007	179,082	789,307
四半期包括利益又は包括利益(千円)	339,522	269,270	823,881
純資産額(千円)	19,047,697	19,538,997	19,390,279
総資産額(千円)	27,791,096	28,780,843	29,510,387
1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	2.22	14.78	65.05
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	59.9	59.2	57.3

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第45期第1四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の被害による景気の低迷から徐々に回復しつつあるものの、欧米の金融不安、歴史的円高に加えタイで発生した洪水による企業収益圧迫懸念などにより、景気の先行きにつきましては依然として不透明な状況が続いております。

このような経営環境の中、当社グループは機能性、独自性の高い商品の開発や、顧客志向型ビジネスを積極的に展開する一方、競争激化する市場に対応し、原価の低減並びに経費の削減に努めました結果、当第1四半期連結累計期間における連結業績は、売上高が4,583百万円（前年同期比16.9%増）、営業利益は339百万円（同72.6%増）、経常利益は399百万円（同65.3%増）、四半期純利益は179百万円（同563.1%増）となりました。

主なセグメントの業績は以下のとおりであります。

#### 家具・インテリア事業

家具・インテリア事業につきましては、各インテリア部門とも全般的に好調で、売上高は3,923百万円（前年同期比22.5%増）、営業利益は246百万円（同279.8%増）となりました。

部門別では、オフィスインテリア部門につきましては、環境適応商品の営業推進に努めました結果、売上高は785百万円（同19.4%増）となりました。店舗インテリア部門は特定企業の出店集中により、売上高は870百万円（同37.3%増）となりました。施設インテリア部門は好調な医療福祉市場に加えホテル市場も回復し、売上高は1,737百万円（同31.0%増）となりました。ホームインテリア部門の売上高は、152百万円（同11.8%減）となりました。

#### 放送・通信事業

放送事業では、CS放送のハイビジョン化が拡大され、より高画質・高音質でお楽しみいただけるようになり、新しい「劇スポコース」では、海外ドラマを筆頭に、国内・韓流・時代劇まで選りすぐりのドラマとプロ野球全試合生中継も視聴できる内容で視聴者層を広げております。

アンテナ受信への移行や大手通信業者の映像配信サービス拡大で厳しい状況となっておりますが、より魅力ある地域情報のコミュニティ番組で差別化を図っていくよう取り組んでおります。

通信事業では、高速・大容量サービスを掲げた大手通信事業者による営業攻勢が大きな脅威となっており、その対策として、テレビ・インターネット・VODの利用料が割安な超得パック「シンプルプラス」コースを設けて既存利用者の囲い込みを展開しましたが、放送・通信事業における売上高は658百万円（同7.9%減）、営業利益では86百万円（同30.5%減）となりました。

なお、記載金額には消費税及び地方消費税（以下「消費税等」という。）は含まれておりません。

#### (2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における財政状態は以下のとおりであります。

総資産については、前連結会計年度末に比べて729百万円減少し、28,780百万円となりました。流動資産は15,031百万円となり、主なものは現金及び預金9,590百万円、受取手形及び売掛金4,415百万円であります。固定資産は13,749百万円となり、主なものは建物及び構築物3,548百万円、投資有価証券4,073百万円であります。

負債については、前連結会計年度末に比べて878百万円減少し、9,241百万円となりました。流動負債は7,018百万円となり、主なものは支払手形及び買掛金4,273百万円であります。また、固定負債は2,222百万円で、主なものは役員退職慰労引当金1,686百万円であります。

純資産については、前連結会計年度末に比べて148百万円増加し、19,538百万円となりました。自己資本は17,033百万円となり、自己資本比率59.2%、1株当たり純資産額は1,405.56円となりました。

#### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

#### (4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、57千円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	47,893,000
計	47,893,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成24年1月20日)	提出日現在発行数(株) (平成24年3月5日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	12,976,053	12,976,053	名古屋証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 1,000株
計	12,976,053	12,976,053		

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成23年10月21日 ~ 平成24年1月20日	-	12,976	-	6,362,498	-	5,401,276

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年10月20日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年10月20日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 854,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 12,033,000	12,033	
単元未満株式	普通株式 89,053		
発行済株式総数	12,976,053		
総株主の議決権		12,033	

(注) 単元未満株式には自己保有株式264株が含まれております。

【自己株式等】

平成23年10月20日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社オリバー	愛知県岡崎市藪田一丁目1番地12	854,000		854,000	6.6
計		854,000		854,000	6.6

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成23年10月21日から平成24年1月20日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成23年10月21日から平成24年1月20日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出していますが、訂正後の四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。



## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年10月20日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年1月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,605,906	9,590,701
受取手形及び売掛金	<u>4,147,369</u>	<u>4,415,247</u>
有価証券	280,187	378,095
商品及び製品	177,848	216,160
原材料及び貯蔵品	140,143	152,985
繰延税金資産	<u>169,144</u>	<u>59,612</u>
その他	183,146	225,687
貸倒引当金	<u>7,281</u>	<u>7,274</u>
流動資産合計	<u>15,696,465</u>	<u>15,031,215</u>
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,663,181	3,548,444
機械装置及び運搬具(純額)	489,310	478,042
土地	2,980,057	2,973,324
リース資産(純額)	307,969	292,466
その他(純額)	138,163	135,680
有形固定資産合計	<u>7,578,682</u>	<u>7,427,958</u>
無形固定資産		
その他	105,977	114,011
無形固定資産合計	<u>105,977</u>	<u>114,011</u>
投資その他の資産		
投資有価証券	3,935,825	4,073,683
保険積立金	1,825,424	1,840,191
繰延税金資産	192,243	125,643
その他	233,268	226,429
貸倒引当金	57,501	58,289
投資その他の資産合計	<u>6,129,261</u>	<u>6,207,657</u>
固定資産合計	<u>13,813,921</u>	<u>13,749,627</u>
資産合計	<u>29,510,387</u>	<u>28,780,843</u>

	前連結会計年度 (平成23年10月20日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年1月20日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	4,184,266	4,273,490
短期借入金	1,100,000	1,100,000
1年内返済予定の長期借入金	88,000	78,000
未払法人税等	557,575	77,894
賞与引当金	263,800	92,200
役員賞与引当金	17,600	4,180
通貨スワップ等	373,535	337,513
その他	<u>1 1,308,917</u>	<u>1 1,055,678</u>
流動負債合計	<u>7,893,694</u>	<u>7,018,958</u>
<b>固定負債</b>		
長期借入金	212,000	200,000
退職給付引当金	93,975	104,721
役員退職慰労引当金	1,676,447	1,686,458
その他	243,988	231,706
固定負債合計	<u>2,226,412</u>	<u>2,222,887</u>
負債合計	<u>10,120,107</u>	<u>9,241,845</u>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	6,362,498	6,362,498
資本剰余金	5,401,276	5,401,276
利益剰余金	<u>6,654,056</u>	<u>6,724,043</u>
自己株式	1,214,184	1,217,847
株主資本合計	<u>17,203,647</u>	<u>17,269,970</u>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	80,016	3,475
繰延ヘッジ損益	92,723	86,010
為替換算調整勘定	121,779	146,976
その他の包括利益累計額合計	<u>294,519</u>	<u>236,462</u>
少数株主持分	2,481,151	2,505,490
純資産合計	<u>19,390,279</u>	<u>19,538,997</u>
負債純資産合計	<u>29,510,387</u>	<u>28,780,843</u>

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年10月21日 至平成23年1月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年10月21日 至平成24年1月20日)
売上高	3,919,884	4,583,930
売上原価	2,874,115	3,323,450
売上総利益	1,045,768	1,260,479
販売費及び一般管理費		
運搬費	65,442	86,459
貸倒引当金繰入額	13	779
役員報酬及び給料手当	349,097	355,990
賞与引当金繰入額	60,800	82,350
役員賞与引当金繰入額	4,400	3,300
役員退職慰労引当金繰入額	12,876	12,927
退職給付費用	21,331	19,838
減価償却費	33,014	38,577
その他	302,159	320,856
販売費及び一般管理費合計	849,135	921,080
営業利益	196,632	339,399
営業外収益		
受取利息	1,949	1,658
受取配当金	27,418	29,695
通貨スワップ等評価益	12,023	20,424
その他	15,303	13,391
営業外収益合計	56,694	65,169
営業外費用		
支払利息	3,981	3,807
デリバティブ評価損	5,736	-
その他	2,246	1,679
営業外費用合計	11,963	5,486
経常利益	241,364	399,082
特別利益		
固定資産売却益	7	-
特別利益合計	7	-
特別損失		
固定資産売却損	2,418	128
投資有価証券評価損	19,603	4,279
会員権評価損	1,190	-
その他	3,701	1,000
特別損失合計	26,912	5,407
税金等調整前四半期純利益	214,458	393,674
法人税、住民税及び事業税	49,109	72,264
法人税等調整額	98,282	111,210
少数株主損益調整前四半期純利益	67,066	210,199
少数株主利益	40,059	31,117
四半期純利益	27,007	179,082

【四半期連結包括利益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年10月21日 至平成23年1月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年10月21日 至平成24年1月20日)
少数株主損益調整前四半期純利益	67,066	210,199
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	289,795	77,555
繰延ヘッジ損益	6,056	6,712
為替換算調整勘定	23,396	25,197
その他の包括利益合計	272,456	59,070
四半期包括利益	339,522	269,270
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	299,189	237,139
少数株主に係る四半期包括利益	40,333	32,131

【追加情報】

当第1四半期連結累計期間  
(自平成23年10月21日  
至平成24年1月20日)

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用しております。

(法人税率の変更等による影響)

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後開始する連結会計年度から法人税率等が変更されることになりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用される法定実効税率は、従来の39.9%から37.3%、復興特別法人税適用期間終了後は、34.9%に変更されます。

この変更により、従来に比べ繰延税金資産(繰延税金負債の金額を控除した金額)が12,993千円減少し、法人税等調整額が6,239千円増加しております。

(架空・循環取引及び不適切な会計処理について)

当社において、架空・循環取引及び不適切な会計処理が過去に亘り行われていたことが判明致しました。このため、当社は、外部の独立機関として第三者調査委員会を設置し調査を実施するとともに内部調査委員会による調査を進めて参りました。

その結果、過去に行われた取引の一部に関して架空・循環取引及び不適切な会計処理が行われておりました。

(訂正報告書の提出について)

当社の不適切な会計処理について、当社は金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき過去に提出いたしました四半期報告書に記載されている四半期連結財務諸表に含まれる不適切な会計処理を訂正し、四半期報告書の訂正報告書を提出することを決定しました。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度末 (平成23年10月20日)	当第1四半期連結会計期間末 (平成24年1月20日)
<p>1. 架空・循環取引等の不適切な取引行為に関連して発生したものが、以下のとおり含まれております。</p> <p>流動負債</p> <p>    その他</p> <p>        未払金 <span style="float: right;">222,617千円</span></p> <p>        営業外支払手形 <span style="float: right;">8,400千円</span></p>	<p>1. 架空・循環取引等の不適切な取引行為に関連して発生したものが、以下のとおり含まれております。</p> <p>流動負債</p> <p>    その他</p> <p>        未払金 <span style="float: right;">228,486千円</span></p> <p>        営業外支払手形 <span style="float: right;">54,990千円</span></p>

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び前第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

前第1四半期連結累計期間 (自平成22年10月21日 至平成23年1月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年10月21日 至平成24年1月20日)
減価償却費 <span style="float: right;">180,816千円</span>	減価償却費 <span style="float: right;">185,125千円</span>

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成22年10月21日 至 平成23年1月20日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の 原資
平成23年1月19日 定時株主総会	普通株式	109,385	9.00	平成22年10月20日	平成23年1月20日	利益 剰余金

(2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

2. 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成23年10月21日 至 平成24年1月20日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の 原資
平成24年1月19日 定時株主総会	普通株式	109,096	9.00	平成23年10月20日	平成24年1月20日	利益 剰余金

(2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

2. 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成22年10月21日至平成23年1月20日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	家具・イン テリア事業	放送・通信 事業	計				
売上高							
(1)外部顧客への売上 高	3,202,798	715,438	3,918,236	1,647	3,919,884	-	3,919,884
(2)セグメント間の内 部売上高又は振替 高	66	1,787	1,853	-	1,853	1,853	-
計	3,202,864	717,226	3,920,090	1,647	3,921,737	1,853	3,919,884
セグメント利益	64,850	125,099	189,950	1,005	190,955	5,677	196,632

- (注)1.「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、牧場事業を含んでおります。  
2.セグメント利益の調整額5,677千円は、セグメント間取引であります。  
3.セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自平成23年10月21日至平成24年1月20日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	家具・イン テリア事業	放送・通信 事業	計				
売上高							
(1)外部顧客への売上 高	3,923,500	658,679	4,582,179	1,750	4,583,930	-	4,583,930
(2)セグメント間の内 部売上高又は振替 高	495	1,786	2,282	-	2,282	2,282	-
計	3,923,996	660,465	4,584,462	1,750	4,586,213	2,282	4,583,930
セグメント利益	246,314	86,953	333,267	724	333,991	5,407	339,399

- (注)1.「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、牧場事業を含んでおります。  
2.セグメント利益の調整額5,407千円は、セグメント間取引であります。  
3.セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。



(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年10月21日 至平成23年1月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年10月21日 至平成24年1月20日)
1株当たり四半期純利益金額	2円22銭	14円78銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	27,007	179,082
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	27,007	179,082
普通株式の期中平均株式数(千株)	12,147	12,119

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年12月7日

株式会社オリバー  
取締役会御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山田 順

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 石崎 勝夫

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社オリバーの平成23年10月21日から平成24年10月20日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成23年10月21日から平成24年1月20日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成23年10月21日から平成24年1月20日まで）に係る訂正報告書の四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社オリバー及び連結子会社の平成24年1月20日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 強調事項

追加情報に記載されているとおり、会社は、四半期連結財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は、訂正前の四半期連結財務諸表に対して平成24年3月2日に四半期レビュー報告書を提出した。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれておりません。